

平成30年度第2回（通算第96回）
山口国際文化化学研究会

■ 「総合実習」について考える

報告事例1：大学院2年 古宮弥生 「茶道でのおもてなしについて」

報告事例2：大学院2年 松浦奈津子 「日本の伝統文化をビジネスで世界に発信」

科目代表者討論：名誉教授 安野早己

教授 稲田秀雄

大学院国際文化化学研究科の特色ある科目に「総合実習」がある。大学院生が地域社会に出かけて、地域づくりや地域文化の再生・創造活動の現場で直接に学ぶ機会を持つとともに、修士研究・創作につながる課題解決やフィールドワークに向けた関係づくりを行うこともできる。国際文化化学研究科の教員全員が担当者であり、大学院生は修士研究の指導・担当教員の助言を得ながら、60時間の実習計画を立案し実施する。この科目のさらなる活用や展開が期待されている。

そこで、2017年度に実習を行った大学院生2名の報告を聞き、科目代表者の課題や展望に関する意見交換をふまえて、総合実習の進め方や受講の仕方などについて考える機会とする。

- 日時 平成30年5月23日（水曜日）16時25分より
- 場所 北キャンパスB202教室
- 主催 山口県立大学大学院国際文化化学研究科

（一般参加可）

教員世話人 山口 光 / 院生世話人 木谷 曜子、下川 まつゑ、十亀 陽太、栗栖 尚太郎